■大垣伝道所閉鎖に至る記録

2016年７月２２日(金)　辻牧師、西堀牧師・磯貝長老より下記２点の通告を受ける。
①大垣伝道所を閉鎖すること。
②辻が辞職すること。即座に次の教会を探すこと。西堀牧師も関与する。

８月１６日(火)　辻は、西堀牧師との間で、下記の２点を確認した。
①辻が2018年３月に岐阜加納教会を辞職すること。
②西堀牧師は今後、辻の異動について関与しないこと。

９月１８日(日)　**岐阜加納教会臨時小会**（辻欠席）
１．教会の将来について　　承認
①辻幸宏協力牧師の働きについて
・2018年３月末をもって、大垣での働きを終了すること。
②大垣伝道所について
・2018年３月末をもって閉鎖する。
・会堂での集会終了後は、教会員宅での集会などを模索する。
・委員方には丁寧に説明すること。必要な資料を西堀牧師が用意すること。
・委員会方に、いつ説明するかは10月２日(日)の定期小会で検討すること。

１１月６日(日)　**岐阜加納教会小会時**（辻退出させられる）
大垣委員に、小会決議について説明がされる。

１１月１３日(日)　**大垣伝道所懇談会**（西堀牧師、全長老出席）
大垣伝道所会員に、小会決議について説明がされる。
辻は、懇談会のねらいについて文書にて下記の４点を提示した。
①現状認識を共有すること。
②大垣伝道所の今後に関しては、小会（西堀牧師、長老方)、大垣伝道所会員、辻、加納教会会員が、向かう方向性と現実にどのような道を歩むかを、一つの結論を得るまで話し合うこと。
③最終的なことは、大垣伝道所会員総会、岐阜加納教会会員総会にて決議される必要があること。
④全会一致、あるいはほとんどの会員が納得した形で会員総会を決議しなければ、その後の教会内で不協和音が生じるため、それを避けなければならない。

１２月４日(日)　**岐阜加納教会小会時**　　大垣委員会として質問書を出す。

１２月１８日(日)　**岐阜加納教会会員懇談会**　　加納教会会員に経過説明される。

2017年１月２２日(日)　**大垣伝道所定期会員総会**　　会員懇談会（長老６名）
・大垣伝道所年報　辻：経過報告執筆　　有：会員懇談会記録

１月２９日(日)　**岐阜加納教会会員総会**　　会員懇談会

■回顧と展望（２０１７年度年報再録）

昨年(2016年)、岐阜加納教会小会は、上記のとおり大きな決断をいたしました。理由は、大垣伝道所の教勢が伸びないこと、岐阜加納教会が大垣伝道所に対する援助を行うだけの体力がなくなってきていることです。小会にこのような重大な決断に至らせたことに対し、大垣担当者として改めてお詫びいたします。

私は、９月の定期小会時に、小会からの勧告を受け入れ辞職を決意しました。ただ大垣伝道所の閉鎖に関しては、小会と大垣伝道所、ならびに岐阜加納教会の会員との話し合いを受けて、その結果を受け入れるのであり、小会の提案に対して、条件付き承認と言ってよいかと思います。

またこの時、私は小会に対して、下記の２点を要望させていただきました。

①当初小会から期限は示されませんでしたが、私の方で2018年３月にして頂きました。特に大垣伝道所の閉鎖に関しては、冷静に話し合う時間が一年は必要だと判断したからです。

②また、大垣伝道所の会員には、丁寧に説明をして、理解して頂くことを要望しました。

その上で、11月の大垣伝道所において行われた会員懇談会において、小会から大垣の教会員に説明された際、私は下記のとおり文書を提示し、説明させて頂きました。

・現状認識を共有すること（大垣への援助は現状のままでは無理なこと)。
・大垣伝道所の今後に関しては、小会（西堀牧師、長老方)、大垣伝道所会員、辻、加納教会会員が、向かう方向性と現実にどのような道を歩むかを、一つの結論を得るまで話し合うこと。
・最終的なことは、大垣伝道所会員総会、岐阜加納教会会員総会にて決議される必要があること。
・全会一致､あるいはほとんどの会員が納得した形で会員総会を決議しなければ、その後の教会内で不協和音が生じるため、それを避けなければならない。

今年、大垣伝道所にとっては、今後の歩みを決定する重要な一年を迎えます。現在のような形で、伝道所を存続することが困難な中、無牧になったとしても伝道所を存続してこの地で礼拝・伝道を継続するのか、小会提案を受け入れ大垣伝道所を閉鎖し岐阜加納教会に合流するかが、問われることとなります。

大垣伝道所は、岐阜加納教会の所属伝道所であり、霊的にも経済的にも岐阜加納教会から援助を受け、また交わりを続けてきました。しかし、大垣伝道所を閉鎖し、岐阜加納教会に合流するためには、二つの教会が合同し、一つとなるための話し合いが行われ、意思疎通を充分にすることが求められます。同時に岐阜加納教会も、西堀牧師の引退に伴う後任牧師招聘を行う年を迎えます。複雑になりますが、二つの事柄を総合的に考え、岐阜加納教会の将来、そして大垣・西濃地域における伝道の将来のビジョンを描いた上で、後任牧師招聘と大垣伝道所の今後について判断していくことが求められます。今年の一年は非常に大切であり、かつ時間はまったくないと言って良いでしょう。そのために、岐阜加納教会小会が主体となり、岐阜加納教会・大垣伝道所が、相互交流・合同会員懇談会・一日修養会などを積極的に行って頂きたいと願っています。

いずれにしましても私は、すでに岐阜加納教会協力牧師の辞職を表明した身として、大垣伝道所の皆さまが「良し」と決められた思いを尊重いたします。

最後に、今年、私たちの伝道所において、上記の事柄をどのように決議していくのかを簡単に説明いたします（巻末の教会規定の抜粋参照）。教師の身分、伝道所の存続に関することですので、会員総会において決議されなければなりません。

①辻の辞職に関して（省略）

②-1 大垣伝道所を閉鎖する場合
教会規定は、教会もしくは伝道所の閉鎖に関して規定していますが、教会所属伝道所の閉鎖に関しては記されていません。ただ大垣伝道所は、伝道所委員会を有し、会員総会を開催しています。そのため、伝道所と教会の合併（第24条の二、第171条）を準用することが求められるかと思います。つまり、大垣伝道所ならびに岐阜加納教会、それぞれにおいて会員総会を行い、それぞれ２／３以上の多数による決議が求められます。

②-2 大垣伝道所を存続する場合
大垣伝道所、小会、岐阜加納教会が一致し、大垣伝道所を存続する道を選ぶにしても、今までとは異なった道を進むこととなるでしょうから、合同で会員総会を行い、何らかの決議をした方が良いかと思います。

辻：記

３月５日（日）　岐阜加納教会機関紙　　辻「変わらぬ思い」執筆

昨年11月に大垣伝道所の委員と会員に、そして12月に岐阜加納教会の会員に、大垣伝道所の閉鎖と辻の辞職に関して説明された。

事前に私の所に話しがあったため、私が最終的にこの提案を受け入れるにあたって小会に出した提案は、「期日を2018年３月にすること」、「大垣伝道所の会員に丁寧に説明して理解を得ること」でした。大垣伝道所の会員にとって、そして大垣伝道所のために祈りつつ支えて下さった岐阜加納教会の兄弟姉妹にとって、小会から提示されたことを受け入れ、前を向いて一つの思いになるためには、最低でも一年という時間が必要だと思ったからである。

小会からすれば、私が問題をかき乱し、複雑にしていると思われていることであろう。それを否定するつもりもないが、しかし小会が決議したことであったとしても、その内容を理解できず、どこに向かうのか分からない状態で、受け入れ、納得することなど出来ないはずである。大垣伝道所の会員からすれば、一年後には、どのような信仰生活を送るのか、大垣伝道所の会堂はどうするのか、といった具体的なことが全く見えない状態で、不安で一杯なことだろう。ことは霊的生命に関わる事柄である。そうした事柄に関して、十分に話し合う機会すら与えられず、自分たちが参与出来ない形で決められようとしている不満もある。

長老主義にとって、小会決議は重要な事柄である。それは主がお立て下さり、

主によって按手を受けた牧師・長老によって、主からの付託に答えた決議がなされるからである。しかし教会が一つとなり、成長するためには、教会員が小会の決議を理解し、受け入れることが求められる。だからこそ、小会が重要な決議をすれば、会員に丁寧に説明し、理解するまで話し合うことが求められる。牧師が「教える長老」と語られることに対して、長老は、「治会長老」と呼ばれている。教会を治めるということは、このような重要な決議を小会が行えば、教会員が受け入れ、納得するまで話し合うことが、教会を治める者の務めである。小会決議が正しいことを行っているのであれば、なおさら長老はもっともっとそのために尽力を尽くしていただきたい。

加納教会小会が、次期牧師招聘活動も重なり、大変な働きを担っているのは十二分に理解している。しかし、大垣伝道所の問題を、今、決断したのは、小会である。小会自体が問題の解決に対して、知恵を出し合い、積極的に働いていただかなければ、決して教会が一つにまとまることはない。

「大垣の問題がもっと早く解決することが出来る」と思っていたのであれば、ことの重大性、大垣伝道所の教会員一人ひとりの魂の問題を真剣に理解しておこなった行動なのかを、自らに問いかけていただきたい。

繰り返し語っていることであるが、私は辞職していく身であり、私がこの問題に関して、どのように解決していただきたいということを提示する権利はないし、語ろうとは思わない。ただ、私が語りたいことは、大垣伝道所会員の魂の問題を解決し安心させていただきたいことと、岐阜加納教会として、加納・大垣のすべての教会員が一つの思いとなり、新しい教会形成のために歩み出していただきたいことである。

５月２８日(日)　大垣伝道所にて会員懇談会（西堀牧師）　有：会員懇談会記録

６月１１日(日)　大垣伝道所会員懇談会（辻：シミレーション提示）

７月１６日(日)　岐阜加納教会一日修養会　大垣伝道所について懇談会

９月３日(日)　大垣委員連名で小会に要望書を提出する（下記要約）。

①西濃地区の伝道ビジョン・スケジュールを示して欲しい。
②大垣伝道所閉鎖に関して、大垣臨時会員総会を開催したい。
③大垣伝道所会堂に関して、土地売却等のシミュレーションを示して欲しい。
④10月の小会もしくは臨時小会に、大垣伝道所委員も出席させていただきたい。

９月１７日(日)　岐阜加納教会臨時小会（辻欠席）

１．大垣伝道所の今後について　　承認

９月３日付けで大垣伝道所の委員会から、「大垣伝道所の今後について」(別紙)と題する文章が小会あてに送られてきたので、それに対する対応を協議して、以下のように決議した。

①来年の４月以降、大垣伝道所と岐阜加納教会は一緒に礼拝と教会活動を行う。
②大垣伝道所で何らかの集会を、小会と相談して進める。
　例えば、月１回午後に礼拝を行う。その場合は中根汎信先生に説教のみを依

頼し、週報・会計・会堂掃除等は大垣伝道所の会員が行う。
また、「大垣ブロック」を組織し、ブロックの活動を行う。
③西濃地区の伝道全般については、後任牧師と相談する。
その場合は、大垣伝道所の会員の意見も伺う。
④大垣伝道所の状況は、しばらく現状のままとする。
大垣伝道所の土地・建物も、しばらくは現状のままとする。

１０月１日(日)　岐阜加納教会小会　大垣委員との懇談会を開催。
上記について説明を受けた（小会からの初めての回答)。
2018年４月に岐阜加納教会に合流すること、伝道所は閉鎖する方向性を確認した。

１０月２２日(日)　　大垣伝道所会員懇談会
上記確認事項を伝え、伝道所として確認した。

１１月５日(日)　岐阜加納教会小会
８．会員懇談会の準備について　　承認
11月12日(日)の会員懇談会に向けて、来年の４月以降の準備等について以下のような話合いの時を持った。
・来年の４月以降は一緒に信仰生活を行う。
・１～３月の大垣伝道所の会計は、今まで通りとする。等

１１月１２日(日)　　岐阜加納教会会員懇談会

１２月３日(日)　　岐阜加納教会小会
８．大垣伝道所関連事項について　　承認
①大垣伝道所　感謝礼拝　２月１８日(日)午後
最終礼拝　２月２５日(日)
＊１月２８日(日)岐阜加納教会の会員総会終了後、中部中会の各教会に案内を発送。
②岐阜加納教会への合流　３月４日(日)
・辻幸宏教師による説教と聖餐式司式、辻家送別会、小会
③大垣伝道所会員の歓迎会　３月１８日(日)
④辻協力牧師の休暇　３月11日(日)～31日(土)
引越　３月19日(月)
⑤大垣伝道所・会員総会　１月２１日(日)　（内容省略）
⑥大垣伝道所の閉鎖に関する決議は、改めて臨時会員総会を行う。
⑦2018年度の予算案　　７月分までを計上　（内容省略）

１２月１０日(日)　岐阜加納教会機関紙　　元木昭男委員

「大垣伝道所の将来についての経過」執筆

主の御名を讃美いたします。牧師をはじめ加納教会会員の皆様には1978年～2017年今日迄大垣伝道所を祈っていただき、重ねて多額の献金をして戴き40年間伝道所として継続できましたこと、心から感謝申し上げます。1984年には会堂も与えられ7名の牧師に支えられて無牧の期間がほぼない状態で伝道所として歩み続けてこられました事、主にあって感謝いたします。

昨年2016年7月22日辻牧師に西堀牧師、磯貝長老より①大垣伝道所閉鎖する事、②辻牧師辞職する事を長老が全会一致で決定したと伝えられました。この件は大垣の委員として全く知りませんでしたが、同年11月6日大垣委員が小会に出席して初めて伺い非常に驚きました。委員からは7月に話が出たのに4ヶ月後の11月迄大垣委員に何故知らされなかったか、教会運営に疑問を抱きました。信仰を同じくする民として大垣伝道所と、もっとコミュニケーションを取って運営すべきと思いました。翌週には大垣伝道所懇談会を持ち、会員に説明されました。また今年１月の大垣伝道所定期会員総会でも懇談会が行われました（記録：「大垣だより」2017年3月号参照)。その後５月28日に懇談会が行われ、懇談会記録を小会に報告しました。

ところが、小会からは具体的な回答がいっさい報告されない為、9月3日に大垣委員の連名で、小会宛に要望書を提出しました（下記に要約)。

①西濃地区の伝道ビジョン・スケジュールを示して欲しい。
②大垣伝道所閉鎖に関して、大垣臨時会員総会を開催したい。
③大垣伝道所会堂に関して、土地売却・借家等のシミュレーションを示して欲しい。
④10月の小会、もしくは臨時小会に、大垣伝道所委員も出席させていただきたい。

この要望を受け、臨時小会が9月17日に行われ、下記の決議が10月1日に大垣伝道所委員に報告されました。

①来年の４月以降、大垣伝道所と岐阜加納教会は一緒に礼拝と教会活動を行う。
②大垣伝道所で何らかの集会を、小会と相談して進める。その場合は…週報・会計・会堂掃除等は大垣伝道所の会員が行う。
③西濃地区の伝道全般については、後任牧師と相談する。
④大垣伝道所の状況は、しばらく現状のままとする（土地・建物)。

大垣伝道所委員会としては､今まで｢伝道所を閉鎖する」ことが前提に語られ、存続に向けての話し合いが一切行われていなかったため、伝道所廃止を前提に心備えを行ってきました。そのため、この時点で初めて、「伝道所存続」の話しが提案され、非常に戸惑いました。

そして、この時になって、伝道所委員の責任において礼拝・集会を継続することが求められても、準備がなく、困難であると、お伝えしました。

その結果を受けて、10月22日に大垣伝道所で会員懇談会が行われ、11月12日に岐阜加納教会において会員懇談会が行われ、報告された次第です。

■回顧と展望

本年１月の定期会員総会において、大垣伝道所の礼拝を２月25日で終了し、３月４日より岐阜加納教会に合流する決議をしていただくこととなりました。また４月以降に臨時会員総会を開催し、「大垣伝道所閉鎖」の決議をし、中会に届け出る予定です。

1975年、吉良昭一郎さんのご家庭を開放して頂き家庭集会を始め、1984年に現在地に会堂が与えられました。その間に服部博(1977-82)、遠山信和(1982-91)、小峯　明(1991-92)、諏訪哲夫(1992-93)、長井正人(1993-97)、小川　洋(1997-2003)、辻　幸宏(2003-18)の各牧師がつかわされ、奉仕を続けてきました。また今日にいたるまでの間、岐阜加納教会を初め、多くの人たちの祈りと励まし、献げ物により、大垣伝道所の歩みが守られてきましたことを、心から感謝いたします。

伝道所閉鎖に関しては、上記に経過を記したとおりですが、2017年９月以降の経過に関しては説明が必要かと思います。大垣伝道所（委員会）は、岐阜加納教会・小会との間で、上記のとおり懇談会を行ってきましたが、経済的な理由で閉鎖が止むを得ないことは語られ、西濃伝道は継続すると口で説明されつつ、具体的な別の道があることはいっさい語られませんでした。大垣伝道所に集う会員にとりまして、2016年11月に、大垣伝道所閉鎖の宣告を受けてから、戸惑いつつ、伝道所継続を願ってきましたが、小会からは、他の道を模索することも、今後伝道所をどのように処分していくかということも、まったく提示されずに来ました。その結果、大垣伝道所委員会としては、次第に閉鎖・岐阜加納教会合流する思いを固めていきました。

しかし、小会からはどのような手順で閉鎖をしていくのかもいっさい示されずに時が過ぎていきました。伝道所閉鎖を行うにあたっても、様々な事柄を検討しなければならず、時間が切迫していました。そのため、大垣伝道所委員会は、大垣伝道所において、早期に臨時会員総会を開催して閉鎖の決議を行い、土地・会堂の売却にも道を示すことを求めたのが、９月３日付の大垣委員連名で小会に要望書です。大垣伝道所の会員一人ひとりが、１０ヶ月間、このことに対して、どれだけ心を痛めつつ、熟慮し、この判断にいたったかを、お覚え頂きたいです。

一方、この要望書を受けて岐阜加納教会小会（私の不在）は、９月１７日に臨時小会を開催し、ここで初めて、大垣伝道所が継続する道があることを決議し、１０月に、初めて大垣委員に示しました。大垣委員としては、２月・３月の時点で示されていれば、この道を選ぶことは出来たかと思います。しかし、１０月の時点で、思いもよらないことが提示されました。祈りも準備もしていないため、この時点でこの小会決議を受け入れることは出来る状態にありませんでした。

こうした経過を受けて、大垣委員会の承諾した上で、小会において、３月に加納教会に合流すること、将来的に大垣伝道所を閉鎖することを確認し、10月の大垣伝道所での懇談会、11月での岐阜加納教会での懇談会となりました。

３月に大垣伝道所会員は、岐阜加納教会に集うこととなります。また、今年度中に大垣伝道所閉鎖の決議も行われる予定です。二つの教会・伝道所が一つとなろうとしています。形としては、大垣伝道所が岐阜加納教会に合流することとなりますが、しかし、大垣伝道所会員のみならず、岐阜加納教会の会員においても新しい教会を作り上げていく心づもりが求められています。私は、2016年11月に大垣伝道所での会員懇談会において語った思いを、今なお切に願い続けています。　　辻：記